

# 令和6年度 世羅町立世羅中学校教育研究計画

## 1 めざす生徒像

校訓	学校教育目標	目指す生徒像	育成を目指す 資質・能力
自主	自ら考え、判断し、 行動できる生徒の育成	○自ら進んで行動できる生徒	主体性
友愛		○世界の一員として何ができるか考える生徒	協働性
創造		○豊かな発想で、新たな価値を生み出す生徒	創造性

## 2 研究主題

**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創造・充実（3年次）**  
～単元内自由進度学習を活かして～

## 3 主題設定の理由

変化が激しく先行き不透明な時代、Society5.0の時代、人生100年時代といわれている昨今、生徒が長い人生を「幸せ」を感じながら生き抜く力が必要である。そのような時代を生き抜くためには、たとえ「未知の状況」であったとしても、生徒自身が「自ら考え、判断し、行動する」ことで、社会でよりよく生き、またよりよい（持続可能な）社会の創り手となる必要があり、学校教育においてその資質・能力を育成することが求められている。

本校では、これまで「まなびChallenge」における試験週間の補充的な学習や、「まなびのとびら」における生徒の興味・関心に応じた学習活動の充実を図り、生徒が自ら学びに向かうことを大切にしてきた。しかし、昨年度に実施した学力調査やAi GROWの結果から、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するには至っていないことがわかった。

こうした課題の改善を図り、学校が「個人の進度や能力、関心に応じた学びの場」となるよう、指導の在り方や学習環境などを見つめ直し、全ての生徒たちに学習指導要領において育成を目指す実際の社会で活用できる資質・能力を育成する必要がある。

## 4 研究仮説

次のような手立てを行えば、生徒は自ら考え、判断し、行動できるようになるであろう。

- (1) カリキュラム・マネジメントによる教育効果の効率化・最大化
- (2) 授業改善（指導の個別化と協働的な学びの充実のための工夫）

## 5 今年度の取組の重点

### (1) カリキュラム・マネジメントによる教育効果の効率化・最大化

教育内容を組織的に配列し、各教科及び領域において思考力・判断力・表現力を活用・発揮する場面を増やすことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

### (2) 授業改善（指導の個別化と協働的な学びの充実のための工夫）

#### 【個別最適な学びの視点】

・各教科及び領域、「指導の個別化」の場面を増やすことで、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等の育成を図る。

#### 【協働的な学びの視点】

・各教科及び領域、「まなびのとびら」の時間において、探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら学習する場面を設定することで、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等の育成を図る。

## 6 検証の指標

- (1) 内部評価指標：生徒質問紙調査「授業では、自分に合った学習活動や学習課題を選ぶことができる」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的評価の割合を90%以上
- (2) 外部評価指標：Ai GROW（アイグロー）「協働性」「創造性」のスコアを合計した目標値（1年生220、2年生230、3年生240）を上回った生徒の割合を55%以上（令和4年度は1年生51%、2年生53%、3年生50%）  
標準学力調査で全国平均を上回った生徒の割合を55%以上

## 令和6年度 年間研修計画

### 1 研究テーマ

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創造・充実（3年次）～単元内自由進度学習を活かして～」

### 2 重点取組

- (1) カリキュラム・マネジメントによる教育効果の効率化・最大化
- (2) 授業改善（指導の個別化と協働的な学びの充実のための工夫）

### 3 年間研修計画

	期 日	目 標	研究内容・ 教科・領域等	連携・指導者名
全体	1 学期	単元内自由進度学習について情報収集をする。 授業研究を通して、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業づくりについて考えることができる。	授業研究 (個別最適な学びに係る研修)	東浦町立北部中学校 佐野 亮子先生 (東京学芸大学)
全体	2 学期 9/11 (水) 自主公開研究会	授業研究を通して、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業づくりについて考えることができる。	授業研究 (個別最適な学びに係る研修)	
全体	3 学期	単元内自由進度学習の研究のまとめをする。	/	

#### ※今後のスケジュールについて

担当	1 学期	2 学期	3 学期
研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業実践の紹介、自由進度学習を実施する単元名と時期を決定する。</li> <li>・ 検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主公開準備</li> <li>・ 自主公開研究会実施</li> <li>・ 研究発表</li> <li>・ 検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証、次年度に向けて研究計画を作成</li> </ul>
各教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に委ねる時間を増やしながら、指導の個別化を図った授業実践、または一人一単元、単元内自由進度学習を実施する。</li> <li>・ 研究先進校の視察をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一単元、単元内自由進度学習を実践する。</li> <li>・ 研究先進校の視察をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの授業を参考にした授業の実践をする。</li> </ul>
5教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まなび challenge として、試験対策プリントを5 kA4 1枚ずつ作成 試験週間の6時間目に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験週間にまなび challenge 実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験週間にまなび challenge 実施</li> </ul>
公開研 授業者			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元内自由進度学習の研究授業を実施する。</li> </ul>